

2. 事業の目的と概要	
(1) 上位目標	気象変動による大波、大雨、洪水など嘗てない災害に見舞われるようになった零細漁民の安定収入を得、持続可能な生活向上をはかる
(2) 事業の必要性 (背景)	バリ島から東へ約 300km、小スンダ列島に属するスンバワ島 (西ヌサ・テンガラ州) ドンブ県は、トウモロコシの増産、養牛業の促進、キリンサイ並びにオゴノリの養殖拡大を優先課題に掲げている。しかし、十年前頃から顕著になった異常気象が原因で、海藻養殖全般に多大の被害が、出ている。特に、大雨や洪水などによる急激な海水の塩分濃度低下や海水温度の低下、日照の低下等が、キリンサイの生理活性を低下させ、バクテリア等に感染することで生じるアイスアイス (病気) の被害が深刻化している。このため、第 2 期で養殖事業を実施し、昨年大被害を受けたドンブ県ドンブ郡フウ村ではなく、県海洋漁業省がパイロット事業を計画しているドンブ市街から約 35 キロ北西に位置するケムプ郡トロカラ村 (人口約 2,000 人、約 370 世帯) での養殖事業への協力を同省から弊団体は依頼された。県海洋漁業省は、新規養殖事業開始に際し、10 世帯の漁民リーダー毎に、小型漁船、300 キロのキリンサイの種、及び必要資材等を支給する。弊団体は、アイスアイス対策として幾つかの実験養殖を試みる。また、漁民リーダーの養成と将来海藻養殖を生業にしたいと現在表明している約 300 世帯に対し、養殖事業の基礎を教えると共に、総合的な人間開発を目指す。2005 年以来、嘗て海藻養殖で生計を立てていた零細漁民は、悪化する気候変動を理由に、生業を養殖事業から山間部での違法伐採に移行してしまった。また、他の収入源であるホンダワラ類 (海藻) の採取も、季節によって採取量は安定しないのみならず、眼科系の疾患や潜水病の危険を伴うコンプレッサーの使用は、違法である。このような違法行為をなくし、県の優先課題であるキリンサイ養殖事業によって零細漁民が安定した収入を確保できるようになることは県政府にとっても重要な課題である。 弊団体では、3 年間のプロジェクトとして「零細漁民のための持続可能な生活向上プログラム」(略称 SULF) を計画し、日本 NGO 連携無償資金協力のスキームを活用し、2012 年 3 月から実施してきた。 第 1 期 (SULF I)、海藻養殖 (キリンサイ) をバリ県セラランガン島に普及させ、零細漁民の収入を安定化させる目的を達成した。 第 2 期 (SULF II)、キリンサイ養殖が普及していない近隣のスンバワ島に事業を拡大し、零細漁民が養殖事業を実施し、安定した収入の確保と生活の向上を実現するきっかけとなった。また、セラランガン島では、養殖事業はより組織化され、経済的自立へと向かっている。 第 3 期 (SULF III) では、上記の経験を基に、異常気象による様々な課題に対し、対処方法を研究すると共に、安定した収穫と品質の向上、組織強化に貢献する計画である。 尚、キリンサイは、乾燥させた藻体からカラギーナン (粘質多糖類) を抽出することができる。このカラギーナンには、ゲル化性がありハムやゼリー等の食品加工、増粘性によるインクジェット用インク生産、清澄剤としてビールや化粧水の透明化など需要性は高い。全世界で、年間 250 万トン (原藻乾重量) 以上の安定供給が求められている。カラギーナンのその他の用途: ミルク製品 (プリン、アイスクリーム、カスタード etc)、製菓 (フルーツゼリー、水羊羹 etc)、畜肉製品 (ハ

	ム、コンビーフ、ペットフード etc)、医薬品・化粧品（シロップ剤、錠剤、練り歯磨、シャンプー、ローション etc) キリンサイ養殖は、環境に優しく、技術的にも容易であるため、老若男女の参加が可能である。
(3) 事業内容	西ヌサ・テンガラ州スンパワ島サイト トロカロ村の零細漁民の中からリーダーとしての資質を持ち得た 10 世帯（約 70 人）を県海洋漁業省が選抜し、直接受益者として、地域全体の生活向上のために以下の活動を実施する。本事業に真剣に取り組もうとしている 10 世帯に対し、将来、本事業を自立運営するために必要な技術、組織作り、養殖事業の拡大に関する養成を行う。また、災害やアイスアイスなどに対処するための、新たな栽培方法（ケージカルチャーなど）を本部専門家、並びに地域の経験者等と試験的に行いながら、キリンサイ養殖方法の多様化を図り、事業の継続性、自立発展性を強化する。 (ア) 県海洋漁業省による種苗の準備と資機材の支給 種苗を購入し、種苗の供給源となる一定量の海藻を栽培する。また、養殖に用いるロープ、アンカー、ブイ、ネット、木材（乾燥場作製用）等の必要資材を支給する。 (イ) 養殖方法（ケージカルチャー）の技術指導 養殖方法の多様化と種苗の保存のため、試験的にケージや吊下げ式の仕組みを製作し、種々のケージカルチャー等を実証試験的に実施する。 (ウ) 嘗て県政府が建設し 10 年来放置されている海岸の作業場を修復し、養殖事業の拠点とする。 (エ) リーダーミーティングの実施 毎月 2 回、スタッフとリーダーが集まり、養殖に関する課題・改善策等（経営管理、品質管理、販路開拓等）について協議し、事業の自立発展性を強化する。 (オ) 様々なセミナーの実施 本部専門家を含む様々なキリンサイ養殖経験者によるトレーニングプログラムを 10 世帯のリーダー、並びに 300 世帯の次期養殖事業実施希望者に対して実施する。 (カ) 協同組合設立支援 協同組合設立のための調整、組織強化を支援する。また、組織化されたグループとして、生産規模を活かし、安定した販路を確立させる支援を行う。 (キ) 近隣の養殖従事者・生産者間の情報交換の促進 養殖従事者同士が知り合い、情報交換ができるよう島内の養殖場を訪問し情報交換等の交流支援を行う。
(4) 持続発展性	収穫された海藻の一部を種苗として利用し、事業を 12 ヶ月サイクルで継続できるようにし、持続可能で安定した生活を維持する。また、近隣の村々にキリンサイ養殖の魅力と可能性をアピールすることによって、同養殖事業がドンブ県全体の主要地場産業のひとつとなるうるパイロット事業となる。
(5) 期待される成果と成果を測る指標	今期 SULF(III) の事業終了までに、以下の成果達成を目指す。 成果 1: 直接受益者である零細漁民 10 世帯が、キリンサイ養殖事業に於けるリーダーとして養成されると共に収入が増加する。 指標 1-1: 全 10 世帯（約 70 人）が、違法乱伐に携わらずキリンサイ養

	殖を生業とすることができる。(収入モニタリング記録) 指標 1-2: 全10世帯が、アイスアイスの発生時、並びに異常気象による災害時に、適切な対応が出来るようになる。(事業実施記録) 指標 1-3: 一世帯当たりの月収を約1,400,000ルピア(約13,000円)から800,000ルピア(約7,500円)増の2,200,000ルピアにすることが出来る。(家庭訪問による聞き取り調査) 成果 2: 直接受益者のほぼ半数に当る女性に就労機会を与える。 指標 2-1: 現金収入のない女性が、養殖事業に参加出来る。(参加者名簿) 指標 2-2: 母子家庭やDVなど家庭内に問題を抱えている女性が、現金収入を得、人権の獲得を含め家庭内での居場所を確保することが出来る。(アンケート調査) 指標 2-3: 女性が副収入を得ることで、幼児に不足がちな蛋白源や菓の購入を容易にする。(アンケート調査) 成果 3: 直接受益者である10世帯の養殖事業に関連する種々の能力と知識が向上する。 指標 3-1: 直接受益者が組織化され、組合設立を目指し準備を始めることが出来る。(組合の活動内容をテーマとした協議・セミナーの記録) 指標 3-2: 近隣の漁村を巻き込んだキリンサイ養殖事業従事者ネットワークが構築される。(サイト訪問の記録) 指標 3-3: 県並びに州内外に、同事業を零細漁村の村興しのパイロットとして紹介することが出来る。(事例の数の記録) 成果 4: キリンサイ事業を生業とする零細漁民が増加する。 指標 4-1: 300世帯の中から、キリンサイ養殖に関するセミナー等への参加者が増える。(種々セミナーの参加者名簿) 指標 4-2: 300世帯の中から、リーダーミーティングに参加し、実際に指導を受けながら、キリンサイ養殖を開始する。(参加者名簿) 指標 4-3: 300世帯の中から200世帯以上がキリンサイ養殖を主要な収入源として月収800,000ルピア(約7,500円)増を目指し、生活を向上させる。(家庭訪問による聞き取り調査)
--	--

(ここでページを区切ってください)